

環境基本計画に掲げる基本目標横断プロジェクトの取り組み

プロジェクト	担当部	担当課	平成30年度の取り組み状況（実績）			令和元年度の取り組み		取り組みに対する自己評価	
			取り組み計画 (Plan)	取り組み内容・成果及び評価 (Do・Check)	今後の見込み、改善策等 (Action)	取り組み計画 (Plan)	A～D	評価がC又はDの場合は理由を記入	
① バイオマス産業都市さかの構築	環境部	循環型社会推進課	<ul style="list-style-type: none"> 清掃工場の余剰電力(再生可能エネルギー)を市内の公共施設に供給する、電力の地産地消の推進。 節電支援システム導入による各公共施設の節電を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 余剰電力を、昨年度までの市内小中学校・本庁舎・公民館等の110公共施設に加え、新たに三瀬中学校、松梅公民館、北山東部小学校の3公共施設に供給し、電力の地産地消を進めている。 節電支援システムの各公共施設の利用履歴を確認し、利用されていないところには再度周知を実施し、各公共施設の電気使用量の見える化・節電の推進を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も電力の地産地消の推進を進め、新に供給したい施設があれば関係部署と協議していく。 各公共施設の使用時のピーク電力を抑えるために、各公共施設に導入されている節電支援システムの電力超過通知メールの利活用推進を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃工場の余剰電力(再生可能エネルギー)を市内の公共施設に供給する、電力の地産地消の推進 節電支援システム導入による各公共施設への節電の推進 	A	<p>評価の目安</p> <p>A：計画通りに実施し、非常に良好な実績を得られた。</p> <p>B：計画どおりに実施できた。</p> <p>C：一部計画通りに実施できなかった。</p> <p>D：計画の見直しが必要。</p>	
		企画調整部	<ul style="list-style-type: none"> 「さが藻類バイオマス協議会」による情報提供やビジネスマッチング等への取り組みを進めるとともに、「さが藻類産業研究開発センター」で藻類培養や抽出などの研究・開発に取り組み、また藻類が有する成分の有効性を研究する。 二酸化炭素の安定供給に取り組むとともに、植物工場等の誘致や多方面での活用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「さが藻類バイオマス協議会」において、会員への訪問や意見交換を実施し、市場調査の情報提供等を行った。また、佐賀大学に設置した「さが藻類産業研究開発センター」において、藻類に関する研究を実施するとともに、佐賀大学の理工学部や医学部とも連携し、有用成分探索の研究についても開始した。 佐賀の藻類に関する取組をPRするため、8月、10月、11月に首都圏で開催された展示会へ出展した。 藻類や二酸化炭素の利活用についての技術連携を進めるため、オランダの政府機関と協力覚書を締結した。 二酸化炭素の安定供給のため、植物工場等の誘致活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 藻類産業の創出と地場産業の活性化に向けて、「さが藻類バイオマス協議会」による様々な事業の実施や新規会員募集活動、また、「さが藻類産業研究開発センター」を活用した研究開発についての周知を図る。 本年度、事業を開始する2つの植物工場への二酸化炭素の安定供給に取り組む。 新たな植物工場等の誘致や多方面でのバイオマス資源の活用について、調査・研究を行う。 	B			
	上下水道局 下水プロジェクト推進部	下水エネルギー推進室	<ul style="list-style-type: none"> 衛生センターの施設改築更新に係る効率的な整備手法の検討 (環境部と協業) 味の素(株)九州事業所からの地域バイオマスの効率的な集約方法の検討 (固形状資源から液状資源受入方法への見直し) 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生センターの施設改築更新に関しては、し尿に対し前処理のみを実施して、下水浄化センターへ移送する構想の下、最も効率的な施設の基本計画を立案した。 味の素(株)九州事業所より、固形状資源受入から液状資源受入れの意向が示され、最も効率的な整備手法として専用圧送管を用いた検討に着手している。 資源受け入れ方法の見直しによって、バイオマス受入棟が不要となり施設計画がスリム化されたことで事業費の縮減に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生センターの事業効果の試算や運営方法、各種整備に伴う各部門間の調整業務が発生する。 全国初の取り組みとなるが、味の素(株)九州事業所側で専用圧送管を用いた事業計画を検討されており、引き続き事業関係者との協議を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 【衛生センター関連】 衛生センターの運用方法に関連した法的整備(条例改正の手続き等) 衛生センターと八田ポンプ場を接続する圧送管路の検討 【味の素関連】 事業化に向けた協議の継続 	B		
	環境部	循環型社会推進課	<ul style="list-style-type: none"> 回収した廃食用油から精製したバイオディーゼル燃料の活用 高品質なバイオディーゼル燃料を精製できる装置の導入に向けた調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> 100%バイオディーゼル燃料を精製して、市営バス3台、ごみ収集車等3台、重機1台、その他車両3台の計10台に使用した。 高品質バイオディーゼル精製装置の安定性、精製燃料の安全性について実証試験を行い、精製装置の更新に向けて概ねの目処を立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 100%バイオディーゼル燃料を精製し、市営バスやごみ収集車等への使用を模索しながら、新型車両に対応した次世代型バイオディーゼル燃料の精製装置への更新に向けた準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 回収した廃食用油から精製したバイオディーゼル燃料の活用 新型車両に対応した次世代型バイオディーゼル燃料の精製装置の導入 	B		
	環境部	循環型社会推進課	市内での食品リサイクルの促進に向けた情報提供や支援等の実施。	<ul style="list-style-type: none"> 食品リサイクル業の創業を目指す市内事業者に対し、堆肥製造の実証場所の提供や成分分析等の支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、市内での食品リサイクル業創業に向け、公募により選定された事業者が行う実証実験に対し、成分分析や出口戦略等の支援を行う。 もみ殻の堆肥材料としての可能性について調査を行う。 	市内での食品リサイクルの促進に向けた情報提供や支援等の実施	A		

プロジェクト	担当部	担当課	平成30年度の取り組み状況（実績）			令和元年度の取り組み		取り組みに対する自己評価		
			取り組み計画 (Plan)	取り組み内容・成果及び評価 (Do・Check)	今後の見込み、改善策等 (Action)	取り組み計画 (Plan)	A～D	評価がC又はDの場合は理由を記入		
② 環境教育の推進	子どもから大人まであらゆる年齢層に応じた学習ができる仕組みづくりを行うことにより、体系的な環境教育を推進する。	1. 佐賀市学校版環境ISO	環境部 教育部	環境政策課 学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員を対象に、各種研修会を実施する。 ・全53校を訪問または書類で審査し、取り組みの状況を確認する。 ・社会科副読本「くらしとごみ」を作成し小学4年生(附属小は3年生)に配布する。 ・子ども環境作品展を実施する。 ・子ども環境活動発表を実施する。 ・表彰事業(ISO活動が盛んな学校を表彰する) ・希望するすべての学校に対してISO認定校の看板を設置及び修繕をする。 ・小中学校の清掃工場見学のバス借上料の一部を負担する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育担当者研修会を実施した。(5/8 参加者51人) ・環境教育指導者研修会を実施した。(8/2 参加者14人) ・要望のあった学校のISO認定校の看板を製作した。(4校) ・社会科副読本「くらしとごみ」を作成し小学4年生(附属小は3年生)に配布した。 ・15校を更新審査(訪問審査)し、取り組みの状況を確認した。 ・小中学校が清掃工場を見学する際のバス借上料の一部を助成した。(14台分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・36校を報告審査(書類審査)し、取り組みの状況を確認する。 ・子ども環境作品展を実施する。(11/8～11/14 応募:ポスター464点) ・子ども環境活動発表を実施する。(2/13 3校発表) ・表彰事業(ISO活動が盛んな学校を表彰する 3校) ・佐賀市学校版環境ISO制度について、要綱等を見直し、手続き等の事務を簡素化することで取り組みやすくする。 ・小中学生を中心とした環境教育が推進されるよう、例年の取り組みを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員を対象に、各種研修会を実施する。 ・全53校を訪問または書類で審査し、取り組みの状況を確認する。 ・社会科副読本「くらしとごみ」を作成し小学4年生に配布する。 ・子ども環境ポスター展を実施する。 ・子ども環境活動発表を実施する。 ・表彰事業(ISO活動が盛んな学校を表彰する) ・希望するすべての学校に対してISO認定校の看板を設置及び修繕をする。 ・小中学校の清掃工場見学のバス借上料の一部を負担する。 ・今後学校が実情に応じて実施していくことができるように、報告書や審査方法等について改善の視点をもって、今年度事業を実施していく。 	A	
		2. 佐賀環境フォーラム	環境部	環境政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・環境分野に関する講義を12回開催する。 ・体験講座を2回開催する。 ・現地見学会を1回開催する。 ・打ち水イベントを開催する。 ・さが環境フェスティバルに出展する。 ・最終報告会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境分野に関する講義を12回開催した。(延べ受講者数: 一般・法人246人 学生475人) ・ごみと自然環境をテーマに体験講座を各1回開催した。(延べ受講者数: 一般・法人9人 学生69人) ・現地見学会として、佐賀市下水浄化センターを視察した。(参加者: 一般3人 学生31人) ・地球温暖化対策の啓発として、平成打ち水夏の陣を開催した。(参加者: 約60人) ・さが環境フェスティバルにグループワークショップが出展し、各グループの活動発表を行った。(総入場者数:11,506人) ・グループ型とインターンシップ型のワークショップを実施し、最終報告会を開催した。(グループ型:3グループ インターンシップ型:3団体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、体験講座、現地見学会、ワークショップは、継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境分野に関する講義を12回開催する。 ・体験講座を2回開催する。 ・現地見学会を1回開催する。 ・さが環境フェスティバルに出展する。 ・最終報告会を開催する。 	A	
		3. 「トンボ王国さが」づくり	環境部	環境政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会「さがの生き物さがし2018」 ・トンボ写真コンクール 作品募集し、入賞作品でカレンダーを作製する。 ・ミヤマアカネの保全活動実施 ・小学校事前学習、草刈り、草搬出、観察会 ・白石原湿原の維持管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会「さがの生き物さがし2018」を開催した。8/18(35人)、10/28(30人) ・トンボ写真コンクールを実施し、市立図書館で入賞作品を展示した ・応募総数:577点(一般(県内)225点、一般(県外)352点) ・写真コンクール入賞作品を掲載したカレンダーを作製した。(1,000部) ・県準絶滅危惧種のトンボ「ミヤマアカネ」を保全するため、地元小中学生と共に生息地を整備した。これに合わせて、事前学習や観察会を行った。 ・白石原湿原の維持管理を行った。 ・小冊子「さがしのとんぼ」を配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トンボに限らず、本市の自然や生き物を広く扱った観察会を企画する。 ・今後も引き続きトンボなどの生き物を通して、市民が自然に親しめる事業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会「さがの生き物さがし2019」 ・トンボ写真コンクール 作品募集し、入賞作品でカレンダーを作製する。 ・ミヤマアカネの保全活動実施 ・小学校事前学習、草刈り、草搬出、観察会 ・白石原湿原の維持管理を行う。 	A	
	4. 環境学習拠点施設(エコプラザ)における環境教育	環境部	循環型社会推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・3Rの推進はもとより、バイオマスや自然環境など、様々な環境問題が自分の生活と深く関わりのあることを実感してもらうための施設見学を実施する。 ・施設見学の機会が少ない中高大学生への環境教育のきっかけづくりと、ごみ処理体験による意識高揚を目的とした職場体験学習の受け入れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の小学生を始め、大学、地域団体、企業・行政視察等の施設見学を受け入れた。見学者数:7,905名 ・施設見学者の都合や希望に合わせて、複数ある見学ゾーンの組み合わせを臨機応変に行い、リピーターにも対応した。 ・中学生の職場体験学習として、リサイクル工場での選別体験を受け入れた。受入人数:3名(3日間) ・高校生の職場体験学習として、リサイクル工場での選別体験およびエコプラザでの環境啓発講座体験を受け入れた。受入人数:1名(3日間) ・大学生の職場体験学習として、エコプラザでの環境啓発講座やイベントの対応体験を受け入れた。受入人数:6名(延べ57日間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、社会科見学の小学生を始め、各種団体の施設見学を受け入れ、様々な環境問題が自分の生活と深く関わりのあることを実感してもらう。 ・今後も、施設見学者の都合や希望に合わせて、複数ある見学ゾーンの組み合わせを臨機応変に行い、リピーターにも対応していく。 ・今後も、職場体験学習を受け入れることで、施設見学の機会が少ない中高大学生への環境教育の契機とし、体験を通じた意識高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3Rの推進はもとより、バイオマスや自然環境など、様々な環境問題が自分の生活と深く関わりのあることを実感してもらうための施設見学の実施。 ・施設見学の機会が少ない中高大学生への環境教育のきっかけづくりと、ごみ処理体験による意識高揚を目的とした職場体験学習の受け入れ。 	A		
		環境部	環境政策課 循環型社会推進課 環境保全課	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の拠点施設であるエコプラザの利活用促進と環境教育の推進を目的として、3Rの推進はもとより、自然環境や生活環境、バイオマスなど、様々な環境問題をテーマとしたイベントやその他イベントを実施する団体の誘致に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育用のパネル展示や、「低炭素型社会」、「循環型社会」、「自然共生型社会」、「生活環境」などに関する環境啓発イベントを実施した。 ・温暖化対策イベント(地球温暖化をテーマとした子供向けの映画上映):2回101名 ・環境全般イベント(清掃工場内の施設見学及び環境問題に関するクイズラリー):1回137名 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体のイベントを誘致し実施することで、これまで環境問題にあまり関心が高かった層にも環境問題に触れる機会を作り、エコプラザの利活用促進と環境教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の拠点施設であるエコプラザの利活用促進と環境教育の推進を目的として、3Rの推進はもとより、自然環境や生活環境、バイオマスなど、様々な環境問題をテーマとしたイベントやその他イベントを実施する団体の誘致に努める。 	A		
		環境部	循環型社会推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザの再生ゾーンを中心に、3Rの推進と意識高揚を目的とした各種講座やイベント等の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザの再生ゾーンにおいて、リユース品やリペア品の販売を行うとともに、3Rに関する講座やイベント(エコマーケット等)を開催した。 ・3Rに関する講座:81回552名 ・エコマーケット、食パザー等:29回5,011名 ・リペア・レンタル等:71回305名 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、エコプラザの再生ゾーンにおいて、リユース品やリペア品の販売を行うとともに、3Rに関する講座やイベント(エコマーケット等)を開催し、参加者の意識高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザの再生ゾーンを中心に、3Rの推進と意識高揚を目的とした各種講座やイベント等の実施。 	A		
		企画調整部	バイオマス産業推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオマスに関する内容を題材に、佐賀市の取組を紹介する教室を開催し「バイオマス産業都市さが」の認知度向上を図るとともに環境学習施設の活用を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校4～6年生を対象として藻類教室を開催し、バイオマスの取り組み及び藻類について学んでもらった。二酸化炭素の活用と藻類について理解し興味を持ってもらう良い機会となった。 【開催日(参加人数)】7/31(18名)、8/23(14名) 【開催場所】佐賀市清掃工場2階会議室 ・バイオマス産業都市構想の認知度向上のため、市民向けのバイオマス教室を開催した。 【開催日(参加人数)】11/20(10名)、12/15(27名) 【開催場所】佐賀市清掃工場2階会議室 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀市に進出している企業やさが藻類バイオマス協議会などと連携することにより、佐賀市においてバイオマスの取り組みが進んでいると実感してもらうとともに、民間企業の日線を取り入れた環境教育を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民、団体、企業等の視察を数多く受け入れ、佐賀市の取組を紹介することで「バイオマス産業都市さが」の認知度向上を図る。 ・進出企業の施設も活用した環境教育を実施する。 	B		

プロジェクト	担当部	担当課	平成30年度の取り組み状況（実績）			令和元年度の取り組み		取り組みに対する自己評価	
			取り組み計画 (Plan)	取り組み内容・成果及び評価 (Do・Check)	今後の見込み、改善策等 (Action)	取り組み計画 (Plan)	A～D	評価がC又はDの場合は理由を記入	
② 環境教育の推進	環境部	環境政策課	市内各校区自治会を実践本部とし、単位自治会を支部として組織する「佐賀市環境保健推進協議会」が行う環境美化やごみ減量などの実践活動や啓発活動への支援。	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境の保全及び浄化、健康で住みよいまちづくりに寄与することを目的として、佐賀市環境保健推進協議会及び各校区実践本部、各支部の活動に対して補助金を交付することにより、地域住民が地域の実情に合った環境保全活動や健康づくり等の活動を実践した。 協議会活動として、環境保全や循環型社会の推進に関する視察研修を実施した。(参加者:100人) 環境保全、ごみ対策、健康推進の各部会において、活動を企画し、実践活動を実施した。(企画:5回、参加者88人 実践活動:6回、参加者:79人) 佐賀駅周辺の路上喫煙禁止キャンペーンに参加し、路上喫煙禁止区域について普及啓発を行った。(実施日:11/12 参加:6人) 佐賀市環境保健推進大会を開催し、環境保全や健康づくりへの功労者表彰と環境保全に関する講演会を実施した。(実施日:2/13 参加者:655人) 	<p>環境保全、健康保健に関する事業は、地域での住民活動を促す意味からも続けることが不可欠であるため、今後も継続予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> 視察研修の実施。 佐賀市環境保健推進大会を開催し、環境保全や健康づくりへの功労者の表彰、環境講演会及び子ども環境活動発表会を実施予定。 各部会において、活動の企画及び実施。 佐賀実践本部及び支部において、地域住民が地域の実情に合った環境保全活動や健康づくり等の活動を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内各校区自治会を実践本部とし、単位自治会を支部として組織する「佐賀市環境保健推進協議会」が行う環境美化やごみ減量などの実践活動や啓発活動への支援。 ～以下、平成30年度の具体的な取り組み～ 先進地視察研修(7月) 佐賀市環境保健推進大会(1月末) 環境保全、ごみ対策、健康推進の部会活動(各2回) 各実践本部及び支部における活動(年間) 	A		
		環境部	環境政策課	<p>東よか干潟ラムサールクラブ活動の運営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブ員の公募(4月) 野鳥観察、底生生物調査(東よか干潟)(5月) 企画展について考える(諫早市干拓の里)(6月) 水生生物調査(シギの恩返し米プロジェクト圃場周辺)(7月) アクトグリーン清掃活動、海岸漂着物調査(東与賀海岸)(8月) KODOMOラムサール湿地交流(荒尾干潟)(9月) 東よか干潟写真展の準備(10月) 干潟の生き物の標本作り(11月) 野鳥観察、活動のまとめ(東よか干潟)(12月) KODOMOラムサール(南三陸町)(2月) <p>小中学校による東よか干潟での学習に対する支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> バス借り上げ料の一部を負担 事前学習のためのパンフレット等の配布 現地ガイドを手配し案内・説明を行うことによる効果的な学習を支援 	<p>東よか干潟ラムサールクラブの運営</p> <p>◎目的:東よか干潟の価値や魅力を学び、多くの人にそのすばらしさを伝える未来のリーダーを育成する。</p> <p>◎クラブ員:子ども(小4～中3)30名、大人10名</p> <p>①5月 オリエンテーション、野鳥観察、干潟の生き物調査</p> <p>②6月 施設見学(諫早ゆうゆうランド 干拓の里)</p> <p>③7月 シギの恩返し米圃場の生き物調査</p> <p>④8月 アクトグリーン(東与賀海岸清掃)参加、漂着ゴミ調査</p> <p>⑤8月 東よか干潟拠点施設展示ワークショップ</p> <p>⑥9月 KODOMOラムサールin荒尾干潟へ参加(1泊2日)</p> <p>⑦11月 東よか干潟の生き物の標本作製</p> <p>⑧12月 野鳥観察、東よか干潟の食を学ぶ、活動の振り返り、まとめ</p> <p>小中学校による東よか干潟での学習に対する支援</p> <p>◎目的:東よか干潟の価値や魅力を現地で学習し体感することにより、郷土の財産を再認識するとともに、ふるさとを愛し佐賀を誇りに思う心をはぐくむ。</p> <p>◎支援実施校:4校</p> <p>①6月 鍋島小4年生</p> <p>②7月 兵庫小6年生</p> <p>③11月 春日小6年生</p> <p>④11月 川上小6年生</p> <p>東よか干潟ボランティアガイドの運営</p> <p>◎目的:東よか干潟の価値や魅力を現地で来訪者に伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイド数:26名 ガイド活動日数:127日 ガイド利用者数:4,420人 	<p>東よか干潟ラムサールクラブの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 東よか干潟の自然環境のすばらしさを理解し体感するとともに、佐賀の自然環境についても学習し、活動の幅を広げる。 他の湿地の子ども達との交流をより一層促進する。 <p>小中学校による東よか干潟での学習に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、小中学校による東よか干潟での学習に対する支援を行う。 雨天時でも学習できるプランの検討や好評である現地ガイドの案内・説明の充実など、学習環境の更なる充実を図り、利用校の増加を目指す。 <p>東よか干潟ボランティアガイドの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで以上に知識とスキルの向上を目指す。 専門的な知識の取得のため、研修会の実施、他の観光地等のガイド活動を学ぶ機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 東よか干潟ラムサールクラブ活動の運営 ◎クラブ員:子ども(小4～中3)24名、大人10名 東よか干潟周辺の生き物調査、海岸清掃活動、海岸漂着物調査、野鳥観察、他の湿地との交流等、6回程度の活動を予定。 小中学校による東よか干潟での学習に対する支援 バス借り上げ料の一部を市が負担 事前学習のためのパンフレット等の配布 現地ガイドを手配し案内・説明を行うことによる効果的な学習を支援 東よか干潟ボランティアガイドの運営 ◎ガイド数:25名 平成30年度に配備した外国人対応のための翻訳機、来訪時には観ることができない風景や動植物をみせるためのタブレット端末を活用したガイドを実施し、来訪者の満足度向上とリピーターの確保を図る。 専門知識の取得のため、佐賀大学や専門家による講座を実施し、ガイド時のスキル向上を図る。 ※令和2年度に開館予定の東よか干潟拠点施設におけるガイド体制や施設の利活用について協議や準備を行う。 	B	
	環境部	循環型社会推進課	日常生活で気軽にできるごみ減量について実践してもらうことで、ごみ問題を身近なものとしてとらえてもらうための「高校生エコチャレンジ」の実施。	市内の高校を対象に、日常生活で気軽にできるごみ減量について、任意の2週間取り組んでもらう「高校生エコチャレンジ」を実施した。参加者数:645名(私立高校4校)	今後とも、市内の高等学校に通学する高校生を対象に「高校生エコチャレンジ」を実施することで、ごみ問題を身近なものとしてとらえてもらう。	日常生活で気軽にできるごみ減量について実践してもらうことで、ごみ問題を身近なものとしてとらえてもらうための「高校生エコチャレンジ」の実施。	B		
	環境部	循環型社会推進課	地域や事業所など、様々な場所での環境教育の場の提供を目的とした出前講座の実施。	<ul style="list-style-type: none"> 地域や事業所等において、3Rの推進やエネルギーの有効活用など、市の取り組みを紹介する出前講座等を実施した。開催回数:17回 生ごみの堆肥化や古紙の分別による減量方法について、体験型講座や相談・サポートを実施した。講座開催回数:65回、サポート実施回数:246回 小学校(4～6年生)に対し、電力の地産地消を始め、分別リサイクルについてゲーム感覚で学べる学習支援プログラムを提供し、出前授業を実施した。開催校数:1校(4年生3クラス) 	今後とも、地域や事業所等を対象とした出前講座を実施することで、様々な場所での環境教育の場の提供に努める。	地域や事業所など、様々な場所での環境教育の場の提供を目的とした出前講座の実施。	A		
環境部	循環型社会推進課	今後の環境教育のあり方や進め方等について協議する環境教育連絡会議の開催。	環境教育関係課で構成する環境教育連絡会議を開催し、環境教育の具体的な方法等について協議しながら各種環境教育事業を実施した。開催回数:1回	環境教育連絡会議を随時開催し、今後の環境教育のあり方や進め方等についても協議していく。	今後の環境教育のあり方や進め方等について協議する環境教育連絡会議の開催。	B			
全庁	各課	保育所、幼稚園、公民館や事業所など、市民のライフステージに合わせた多様な環境教育の実施。特に、環境教育を受ける機会が少ない幼児や高校生に対して、効果的な環境学習の手法等を検討し、機会の創出に努める。	上記の取り組みのほか、緑化教室や自然体験、農業体験、植樹イベントなど、環境や自然に関連する事業を行う各部署において環境教育を実施。	引き続き、市民が自然に親しみ、環境配慮の意識が高まるような環境学習の機会を提供する。	保育所、幼稚園、公民館や事業所など、市民のライフステージに合わせた多様な環境教育の実施。特に、環境教育を受ける機会が少ない幼児や高校生に対して、効果的な環境学習の手法等を検討し、機会の創出に努める。	—			